

# 陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.34 2010.1.15

第4号(24年8月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

## 人生と時間

☆皆さんは毎年、御飯を食べるのに、二週間も時間を費していると言う事を御存知ですか？ 一日三度の食事に仮に一時間掛るとして、一年では三百六十五時間(二週間)。

☆人生五十年として、二週間の食事時間を計算すると、二年間食べ続けている事になり、大体十トンの分量の食物と三千五百ガロンの水分を摂っていることになります。

☆更に、起床と就寝にそれぞれ二十分掛るとすると、その総計時間一年と四ヶ月！ 序に睡眠時間は一日の三分の一として、五十年では約十七年間眠り続けている事になります。

☆誰でも五、六歳頃から表へ出始め、小さい間は学校へ、長ずれば会社へ。この往復に、



平均一時間半掛るとし日曜祭日を除くと、二年半往復し続けている事になり、その距離を平均一日四里(約十六キロ)とすると、地球の周囲を二回半回った事になります。

☆次に、二十歳から髭を剃り始めるとして、毎朝剃るとすると、五十歳迄の三十年間にこれに要する時間四ヶ月、剃り落した髭の長さ約十五フィート(約四メートル六十センチ)。

☆もっと細かい計算になって、腕時計を巻くのに十五秒は掛る。だから十五歳の時から時計を腕につけるとして、五十歳迄には丸三日間巻き続け、二十万回巻く事になる。

☆靴を履く事に掛りきつてる事になります。

☆こんな風に計算して行くと、五十年の中で残る時間は二年と二ヶ月。勿論、この時間の中に、お茶を飲んだり、雑談したり、映画を見たり、恋をしたり、読書やハイキングや乗物を持つ時間や一切が含まれている訳で、では一人間は一生の中で働くのは本当はどれ位なんでしょう？

# かしまのかりもの

加見兵四郎

(東海大教会初代会長)

(前略)

神様のお働きは身体、粒毛(りゅうけ)草木、鳥畜類、虫けらに至るまで、知らん間にできてきて、知らん間に大きくなってくる働きである。

これはみな、人間の心を喜ばしたいとの親神様の思召により、そのお働きを添えて下され、人間の知らぬ間に、喜ぶようにさせてやろうとお思い下さるので、そうなって来るのである。

夜が明ければ昼となり、また昼が暮れば夜となる。春がすぎたら夏となり、夏が過ぎたら秋となる。

秋が過ぎたら冬となる。この四季にそれぞれ珍しいものを造って下され、珍しい

もの

花を見せて下さる。

それをいただく、人間の

身体は申すに及ばず、粒毛草

木、虫けらに至るまで、残ら

ず心を添えて下され、お働き

下さる故に、そうなって来る

がまま勝手に振舞って踏みつ

ぶして来たようなものである。

人間は何事も、生んでいた

だいたいの、育てていただいた

たのも、助けていただいたの

も、みな神様のお陰である。

人間は日々助けて

いただいている事

をさとり、日々を

喜んで、人に神様

のお働きを教え、

真実から人を助け

る心になって、通

らなければならな

い。

真実から人を助

ける心を陽気とい

う。その心が神様

の御心に添うから

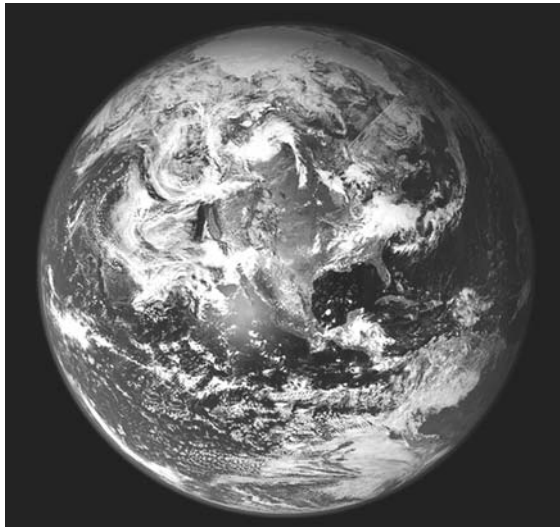
それで何事するに

も思うにも、何か

なわんといふことはないの

である。

高野友治著作集第三巻(道友社刊)



北海道に血と汗と涙を流した伝道の記録

# 大地を駆ける伝道者たち

初の地域限定おたすけ実録集

天理教北海道教務支庁編  
四六判並製 304 頁  
定価=1,575 円(税込) 〒200  
養徳社  
天理市川原城町 388  
☎(0743)62-4503  
http://yotokusha.com/

「陽気」創刊 60 年記念出版

## 人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260 円(税込) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

## 道の八十年

—松村吉太郎自伝—  
天理教の歴史とともに  
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680 円(税込)  
(高安大教会初代会長) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

## お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52 話

朝席・夕席に最適です

定価=1,260 円(税込) 送料 200 円

養徳社 よもやま話

○……お正月に家族で映画「イエスマン」を観た。友達付き合いも仕事のうえでも「ノー」としか言わない中年男性。そんな態度を見かねた友人が自己啓発セミナーに誘う。そこでは、身の回りに起こる出来事に「イエス」と言えば、人生が開けると教えられる。半信半疑で実行するうちに、次々と幸運に恵まれるという話だ。

至って単純なストーリーだが、注目すべきは、自分にとって何の益(えき)にもならないと思われたことを「イエス」と実行するうちに、やがてすべてが良縁となって身の助けになるところ。

人を大事にすることをストレートに説く映画に、わが身を省みた。

### 広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで  
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。ますよう、お願い申し上げます。

養徳社